

2014年2月12日実施

解 答

1 (B)	2 (A)	3 (C)	4 (C)	5 (A)	6 (D)
7 (A)	8 (D)	9 (D)	10 (B)	11 (C)	12 (C)
13 (D)	14 (A)	15 (B)	16 (B)	17 (D)	18 (A)
19 (C)	20 (D)				

1. 「ハワイでの休暇の間に、アダムは相当多くの写真を撮った」

▶ quite a few で「かなり多くの」という表現。few は数が少ないと表し、可算名詞(複数形)の前に置く。(D)quite a lot (of ...)で「かなりの(…), 相当(数[量]の….)」の意味であり、選択肢が「a lot of」となっていれば正しい。

few の意味と用法

少しの〔肯定的〕	a few
ほとんど~ない〔否定的〕	few / only a few (= very few)
少なからぬ	not a few / quite a few (= many)

2. 「我々が今日どれくらい進歩したかをもう一度見てみましょう。私はレポートをほとんど終えたと思う」

▶ 空欄の直前の at と直後に主語・動詞があることから、名詞節を作る要素が入ると考えられる。How far ~? で「どの程度まで~か」という距離や程度を尋ねる疑問文。

[例] How far is it from Osaka to Kyoto?

(大阪から京都まではどれくらいの距離ですか。)

□ take a look at ~ 「～を(ちょっと)見る」 (= look at ~/have a look at ~)

Could you take[have] a look at this draft?

(この下書きをちょっと読んでいただけますか。)

3. 「リチャードは今年生物学と化学の授業を履修することになっている」

▶ 空欄の直前に助動詞 will があるので、(A), (B), (D)は入れることができない。未来進行形(will be + 動詞の ing 形)では「未来のある時にする予定に決まっている動作」を表す場合にも使われる。

■ 未来進行形の 2 つの用法

「今」から未来のある時のことと予測したとき、その時に「行われている最中」であると思われる動作は、will と進行形を組み合わせた (will be + 動詞の ing 形) で表現する。

(1) 未来のある時点で進行中であろうことを表す

We will be playing tennis at this time tomorrow.

(明日の今ごろは、私たちはテニスをしているだろう。)

(2) 未来のある時にする予定に決まっている動作

I will be meeting him at the airport next week.

(来週、彼を空港に迎えに行くことになっている。)

4. 「電車を 3 時間待った後、スザンは駅長と話すことを要求した」

▶ demand to do で「～することを要求する」という意味で、(C)が正解。demand は動名詞を目的語にはならない他動詞である。

□ demand to do 「～することを要求する」

He demanded to know the reason for the delay.

(彼はそれが遅れた理由を教えると要求した。)

▶ ask, request, require と違って [SVO to do] の型はない。

5. 「タカシは、大変多くの英単語を知っている。彼は、いわゆる生き字引である」

□ what we[you/they] call 「いわゆる～/世間で言う～」 (= what is called)

He is what we call a man of culture.

(彼はいわゆる教養人だ。)

This music is what is called "rap."

(この音楽がいわゆる「ラップ」です。)

6. 「なぜ、電話しなかったの？あなたが来ることを知っていたならば、もっと多くの食物を準備しただろうに」

▶ 過去の事実とは違うと思っている事柄を表現するには、仮定法過去完了を用いる。本問では、主節の **would have prepared** に注目して、仮定法過去完了だと判断する。仮定法過去完了の if 節は過去完了形なので、(D)が正解である。

■ 仮定法過去完了：「もし～だったなら、…だったろうに」

If + S + 動詞の過去完了形, S + 助動詞の過去形 + have + 過去分詞

[例] If I **had left** ten minutes earlier, I **would not have missed** the train.

(もし 10 分早く出発していたら、列車に乗り遅れることはなかっただろう。)

She would have died if the climber **had not found** her.

(もしその登山者が彼女を見つけていなかったら、彼女は死んでいただろう。)

7. 「特別な絹から作られているので、このセーターは非常に高価だった」

▶ be made from ~ 「～(原料)でできている」という意味で、(A)が正解。be made + [of/from] + [材料/原料] の表現では、of と from の使い分けが頻出である。

■ 材料/原料を表す前置詞 of と from の使い分け

材料/原料に変化がなければ of を、加工されていれば from を用いる。

This jacket is made **of** leather. (このジャケットは革製だ。)

This burger is made **from** soybeans. (このハンバーグは大豆で出来ています。)

8. 「昨日は祝日であったが、学生はそれでも授業に出席しなければならなかつた」

▶ yesterday was a national holiday という節が続くので()には接続詞が必要である。選択肢の中で接続詞は(D)although「～だけれども」のみである。

▶ (A)nevertheless「それにもかかわらず」、(C)however「それにもかかわらず/どんなに～(しよう)とも」は副詞、(B)despite「～にもかかわらず」は前置詞である。

□ although ~ 「～だけれども」 (= though ~)

▶ although は though よりもやや堅い語。

Although Mary missed the last train, she was able to get home.

(メアリーは終電車に乗り遅れたけれども、家に帰り着けた。)

9. 「私は、トロントへの訪問に非常に満足している。その旅行は、最高だった」

▶ 難問である。(C), (D)どちらを選んでも「～した[だった]はずはない」という意味になる。The trip () have been better. には、言外に「もしそれ以上の素晴らしい旅行を望んだとしても」という仮定のニュアンスが含まれているので、仮定法過去完了となる(D)を選び、The trip could not have been better. 「その旅行がそれより良いものになることはありえなかっただろう → それが最高だった」とするのが適当である。

■ cannot[can't] have done 「～した[だった]はずがない」

過去のことに対する現在の『確信のある否定的推量』を表す。

He **cannot have accepted** your plan.

(彼があなたの計画を受け入れたはずがない。)

could not[couldn't] have done もほぼ同じ意味を表す。

She **couldn't have noticed** the difference.

(彼女がその違いに気がついたはずがない。)

10. 「あなたが寝る前に、確実に食器を洗って、消灯してください」

▶ you go to bed という節が続くので()には接続詞が必要である。(C)during は前置詞なので不可。(A)until「～までずっと」は継続を意味するので継続を示す動詞としか使えない。(D)while「～している間」では文意が成り立たない。

□ make sure + that 節 「かならず～するように手配する/～を確かめる」

▶ that は省略可。make sure の後は that 節のほか、of + 名詞が続く。

He made sure that the job would be properly done.

(彼はその仕事がきちんとされるように手配した。)

11. 「スミス教授は、今週はとても忙しいので、会う予約をしていないと学生は彼女に会うことができない」

▶ 文意より, **by appointment**「会うために約束をして/予約して」という意味になる(C)が正解。(A)**reservation**「予約」, (B)**schedule**「予定」, (D)**engagement**「(改まった)約束」。

『予約・約束』を表す名詞	
<input type="checkbox"/> promise	「(一般的な)約束」
<input type="checkbox"/> appointment	「(人に会う)約束/(診察などの)予約」
<input type="checkbox"/> reservation	「(切符・部屋・座席などの)予約」
<input type="checkbox"/> booking	「予約」 (= reservation)
<input type="checkbox"/> subscription	「(新聞・雑誌などの)予約購読」

12. 「ハーバード大学は、法律を学ぶ最高の場所の1つであるという評判を得ている」

▶ **evaluation**「(価値・数量・質・程度などの)評価, 査定」, (B)**assessment**「(財産・収入・税額などの)評価, 査定」, (C)**reputation**「評判」, (D)**achievement**「達成, 業績」の中で、「法律を学ぶ最高の場所の一つであるという」につながるのは(C)である。

13. 「エリカは、常に何かを読んでいる。彼女には、大変広範囲の興味があるのだ」

▶ (A)**amount**「量, 総額」, (B)**quantity**「量」, (C)**choice**「選択」, (D)**range**「幅, 範囲」の中で文意に合うのは(D)である。

a wide range of ~ 「広範囲の~/幅広い」

We sell *a wide range of goods*. (当店は何でもそろえています。)

14. 「私は、そのレポートにおけるこのミスに対して誰に責任があるかについて、はっきりとはわからない」

▶ 『be to 不定詞』の構文。(A)**blame**「～の責任にする」, (B)**scold**「～をしかる」, (C)**accuse**「～を訴える, 告発する」, (D)**charge**「～を責める, 告発する(accuseより堅い語)」の中で、空欄に続く **for** と合わせて意味をなすのは(A)が相応しい。

be to blame for ~ 「(～に対して)責任がある/責めを負うべきである」

We thought he was *to blame for the accident*.

(私たちは、その事故の責任が彼にあると思っていた。)

■ 「be to 不定詞」の用法

「**be to 不定詞**」は助動詞のように働いて、次のような意味を表す。

①予定・運命 ②義務・命令 ③可能 ④意図・願望

ただし、「**be to 不定詞**」が文字通りに「～することがある」〔名詞的用法(補語)〕と訳すべき場合も多い。

My aim **is to become** a doctor. (私の目標は医者になることです。)

15. 「図書館での火事によって、多くて1万冊の本が破壊されたか、ひどく損害を受けたと見積もられた」

▶ (A)**totaled**「合計された」, (B)**estimated**「見積もられた」, (C)**added**「追加された」, (D)**copied**「複製された」のうち文意が成り立つのは(B)である。

up to ~ 「～の責任[義務]で/～次第で」

▶ **It is up to A to do** 「～するのは A の責任だ/A 次第だ」

It is up to A whether ~ (or not)「～かどうかは A 次第だ」の形での出題が多い。

It is *up to you whether we can succeed or not*.

(私たちが成功できるかどうかは君次第だ。)

▶ **up to** の次の意味も重要である。

①「[時間・空間](最高)～まで/～に至るまで」 → 本問

②「(通例悪事など)を企んで」

16. 「あなたが名古屋に来る場合には、遠慮なく私のところに立ち寄ってください」

- ▶ (A)put up「建てる, 飾る, 発表する」, (B)drop by「立ち寄る, 顔を出す」, (C)come off「落下する, はがれる, 実現する」, (D)get on「乗る, 身につける, うまくやっていく」のうち文意が成り立つのは(B)である。

□ **ever** 圖 「(肯定文の if 節で)いずれ, いつか, とにかく」

[例] If you are ever in Osaka, come and see me.

(大阪へもしあいでの時は, ぜひお立ち寄りください。)

□ **feel free to do** 「遠慮なく～する」

Feel free to ask any questions you might have.

(遠慮なく何でも質問してください。)

□ **drop by[in]** 「立ち寄る」

Drop in[by] sometime. (いつか立ち寄ってください。)

17. 「あまりにも多くの人が出席することができないので、会議は来週まで延期された」

- ▶ (A)interrupted「中断した」, (B)removed「取り除いた」, (C)replaced「取り替えた」, (D)postponed「延期した」のうち文意が成り立つのは(D)である。

18. 「その会社は、空気調節システムを修理しようとして多額の金を費やした」

- ▶ (A)deal「量, 程度」, (B)figure「数字」, (C)total「総計, 総額」, (D)number「数」。なお, trying の前の前置詞は省略されている。

□ **a great[good] deal of A** 「多量の A/多額の A」 (= a lot of ~)

▶ 不可算名詞の単数形について『量』『程度』を表す。

There is a great deal of pollution on the beaches this summer.

(今年の夏の浜辺はたいへん汚れている。)

▶ 可算名詞の複数形について「多くの～」を表すのは, **a large number of** 又は **plenty of**。どちらも複数扱いである。

19. 「私は依然として、我々のキャンプ旅行のためにメアリーとビルからテントを借りる必要がある。それ以外は、我々が必要とするものはすべて持っていると思う」

- ▶ (A)except「～以外は」, (B)besides「～に加えて」, (C)other「他の」, (D)aside「わきへ, 別にして」。 (C)以外は than につながらない。 other than ~で「～以外」という意味の前置詞句。

□ **other than ~ 「～以外」** (= except ~)

She doesn't respect any person other than her mother.

(彼女は母親以外のどんな人にも敬意を払わない。)

20. 「ドライバーが釣り銭をくれないので、正確なバス料金を持っていることを確認しなさい」

- ▶ 「釣り銭をくれない」ということは, (D)exact「ちょうど, きっかり」のバス代を用意する必要があるということになる。 (A)adequate「十分な量[質]の」, (B)enough「十分な」, (C)suitable「適した」。

□ **make sure that** 節 「必ず～するように手配する/～を確かめる」 → 問 10 参照

接続詞 as の用法

(1) 時・同時状況 「～するとき(に)/～しながら」 *when より同時性が強い。

(2) 比例 「～するにつれて」 *通例, 比較級と一緒に用いる。

As we went up the mountain, the air became thinner.

(山を登るにつれて, 空気が薄くなつた。)

(3) 原因・理由 「～なので」 *この意味では because/since を多く用いる。

(4) 讓歩 「～だけれども」 *形容詞[副詞/名詞]+as SV の形で用いる。

(5) 様態 「(～する)ように/～の通りに」

I wish we had done as we were told.

(私たちは言われた通りにしたらよかったです。)

(6) 直前の名詞を限定して 「(～する)ような/(～した)ときの」

language as we know it 「私たちが知っているような言語」